

稲沢市 観光まちづくり ビジョン

第 2 次 稲 沢 市 観 光 基 本 計 画



稲沢の“光”をつなぐ
観光まちづくり



計画の進捗状況（2020 年度年次報告書）

稲 沢 市

1 成果指標と目標値の達成状況について

稲沢市観光まちづくりビジョンにおいて、計画最終年（2027年）の目標として掲げた指標に対する今年度の達成状況は下表のとおりでした。

■稲沢市観光まちづくりビジョン成果指標

項目	2017年 (基準値)	2020年 (実績値)	2022年 (中間値)	2027年 (目標値)
年間観光入込客数	253.6万人 ^{※1}	191.4万人	350万人	500万人
稲沢市の「観光振興」に対する市民満足度 ^{※2}	31.2%	32.6% ^{※2}	↗	50.0%
稲沢市に対して誇りや愛着を持つ市民の割合 ^{※2}	69.7%	66.1% ^{※2}	↗	80.0%

※1：愛知県観光レクリエーション利用者統計の数値（2,116,468人）に「サリオパーク祖父江」の利用者数（419,507人）を加えたもの。ただし、2016年中の数値。

※2：2017年は市政アンケート調査結果【2017年5月実施】、2020年は市政世論調査結果【2020年8月実施】による。

■年間観光入込客数の推移

単位：(人)

観光レクリエーション 資源・施設	2016年 (基準値)	2018年	2019年	2020年	
				客数	対前年増減数
国府宮はだか祭	80,000	195,000	250,000	200,000	△50,000
いなざわ梅まつり	22,000	25,700	25,000	2,500	△22,500
稲沢桜まつり	9,200	4,000	8,000	開催中止	△8,000
へいわさくらまつり [※]	未計上	未計上	未計上	開催中止	—
いなざわ植木まつり	49,000	55,000	41,100	開催中止	△41,100
稲沢あじさいまつり	57,000	54,000	54,000	開催中止	△54,000
稲沢夏まつり	45,000	54,500	56,000	開催中止	△56,000
稲沢サンドフェスタ	35,000	51,000	開催中止	23,522	23,522
稲沢まつり	94,000	107,000	76,000	開催中止	△76,000
福祉まつり	5,179	4,998	4,930	開催中止	△4,930
そぶえイチョウ黄葉まつり	155,000	271,750	259,450	開催中止	△259,450
稲沢イルミネーション [※]	未計上	12,600	15,000	12,000	△3,000
荻須記念美術館	41,815	57,542	50,711	32,193	△18,518
尾張大國霊神社(国府宮)	1,054,754	1,374,182	883,849	938,566	54,717
矢合観音	102,000	102,000	75,000	61,000	△14,000
善光寺東海別院	366,520	410,100	403,500	251,000	△152,500
サリオパーク祖父江	419,507	435,263	417,871	382,198	△35,673
豊田合成記念体育館 (エントリオ) [※]	—	—	—	10,931	10,931
合計	2,535,975	3,214,635	2,620,411	1,913,910	△706,501

※観光資源・施設の掘り起こしにより、2018年から「稲沢イルミネーション」を、2020年から「へいわさくらまつり」及び「豊田合成記念体育館」（2020年9月27日オープン）を計測地点に追加。

■その他の祭り・イベント、施設等への来訪者数

単位：(人)

祭り・イベント、施設等	2019年	2020年
矢合観音節分祭（2月3日）	500	500
椿見会（3月下旬）	1,600	1,300
尾張の虫送り（7月上旬の土曜日）	300	開催中止
こがしまつり（7月第4土曜日）	2,000	開催中止
円光寺萩まつり （9月中旬の土曜日・日曜日）	200	開催中止
国分寺マルシェ（毎月3日）	8,000	開催中止
矢合十八番市（毎月18日）	1,100	開催中止
やわせ！てくてくウォーキング♪ ＜いなざわ観光まちづくりラボ企画＞ （3月上旬）	27	開催中止
稲沢グリーンツーリズム ＜いなざわ観光まちづくりラボ企画＞	22	開催中止
新型コロナ退散 稲沢市民大太鼓 ^{※1} ＜いなざわ観光まちづくりラボ企画＞ （2020年12月5日）	—	1,200
季節を運ぶ手作り小物 四季の詩 ^{※1} ＜いなざわ観光まちづくりラボ企画＞ （2020年10月16日、12月16日）	—	100
大塚性海寺歴史公園・性海寺のアジサイ観賞 ^{※2} （2020年6月1日～6月14日）		18,000
祖父江のイチョウ黄葉観賞 ^{※3※} （2020年11月21日～11月29日）		70,000
明治なるほどファクトリー愛知	30,000	8,564
メタウォーター下水道科学館あいち	85,188	43,581
JA 愛知西産直広場 一色下方店	234,579	240,243
JA 愛知西産直広場 下津店	136,363	136,383
JA 愛知西産直広場 国府宮店	167,702	167,796
JA 愛知西産直広場 大里店	118,817	121,155

※1：「新型コロナ退散 稲沢市民大太鼓」及び「季節を運ぶ手作り小物 四季の詩」は2020年から開催。

※2：「稲沢あじさいまつり」の開催中止に伴い計測。

※3：「そぶえイチョウ黄葉まつり」の開催中止に伴い計測。

■参考指標

項目	2018年度 (実績値)	2019年度 (実績値)	2020年 (実績値)	2022年 (中間値)	2027年 (目標値)
市内観光消費額 (一人当たり)	2,287円	2,602円	2,343円 [※]		4,000円

※：2021年1月末調査時点

2 重点アクションプランの進捗状況について

「いなざわ観光まちづくりラボ」の推進



いなざわ観光まちづくりラボとは・・・

「いなざわ観光まちづくりラボ」は、稲沢市観光まちづくりビジョンに基づき、稲沢市の観光まちづくりを推進するため、2018年7月に設立された市民主体による実践組織です。

稲沢市観光協会がファシリテーターとなりながら、市民や民間事業者、関係機関・団体、行政等、地域づくりの担い手の方々や稲沢市に愛着を持ってみえる方々の活動や思いをつなげ、ネットワーク化を図ることで、それぞれの役割やノウハウを活かし合える環境を整備し、稲沢市の特色を活かした観光・交流事業の創出や魅力の再発掘・再構築に取り組んでいます。

(1) ロードマップ

ロードマップ				
2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
立ち上げ・運営	事業の企画・実施	→ 自立に向けた検討		→

(2) 2020年度の経緯・経過

PickUp

- ✓ ラボの運営を全体会議と運営会議の2本立てで行った。全体会議は、新たなプロジェクトの提案や個々のプロジェクトに対する協力依頼など、メンバー間の情報共有と意見交換・交流の場とし、運営会議は、ラボのファシリテーターの役割を担う稲沢市観光協会とラボの中心メンバーがラボの運営方法を検討・協議したり、全体会議の開催に向けた準備・調整を行う場とした。

なお、個々のプロジェクトの進行については、各プロジェクトのリーダーを中心にそれぞれがミーティングを随時開催することとした。

- ✓ 稲沢市観光協会が展開する事業を魅力的かつ効果的に推進していくため、ラボメンバーの持つ知識や経験、ノウハウの活用に努めた。各種事業への参画を積極的に呼び掛け、ワーキング会議や電子メール等での意見交換を重ねた結果、メンバーの参画意識やモチベーションの向上、事務局とメンバー間の信頼関係の構築に繋げることができた。

<主な参画事業>

おうちで盆踊り♪、「信長公生誕の地・勝幡城跡」を核とした武将観光の推進、美濃路マップの作成、情報発信(SNS)の強化、観光ボランティアガイドの育成

- ラボメンバーが企画したプロジェクトの提案を基に、メンバー専用のオンライン交流サイトが立ち上がった。また、プロジェクト活動に対する支援措置(支援金制度)を来年度から新たに設けることになった。

① 会議等の開催状況

項目	開催日・会場	内容
第1回運営会議	2020年5月18日 稲沢市観光協会	・今年度の運営方法について
第2回運営会議	2020年5月21日 稲沢市観光協会	・今年度の運営方法について
今年度のラボ活動を進めるにあたって (インターネット環境・近況調査)	2020年5月25日	新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、当面の間、会議の開催を控えなくてはいけない状況が生じたため、コロナ禍におけるメンバー間の情報共有、意見交換やプロジェクト推進の手法を探るべく、個々のメンバーのインターネット(パソコン、スマートフォン)・SNS等の利用状況と近況(プロジェクトの進捗状況、ラボ活動への意見・要望など)に関する把握調査を行った。
第3回運営会議	2020年7月7日 稲沢市観光協会	・今年度の運営方法について ・第1回全体会議の開催に向けて
第1回全体会議	2020年8月4日 稲沢市産業会館 1階・大会議室	・新規プロジェクトの提案 ・事務局からの協力依頼 (稲沢で楽しめること・学べることの提案募集)
第4回運営会議	2020年9月24日 稲沢市観光協会	・第2回全体会議の開催に向けて
第2回全体会議	2020年10月7日 稲沢市産業会館 1階・大会議室	・プロジェクトからのお知らせ ①季節を運ぶ手作り小物『四季の詩』 ～ワンコインチャリティ～ ②「いいなざわざわ」season2 ～ラボ活動のオンライン交流の場としての活用～ ・基調講演 <講師>大澤 健氏(和歌山大学経済学部教授/ いなざわ観光まちづくりゼミアドバイザー) <タイトル>「観光まちづくり」について原点に 戻って考えてみよう ・新規プロジェクトの提案 ・大澤教授による講評

第5回運営会議	2020年11月27日 稲沢市観光協会	・第3回全体会議の開催に向けて
第3回全体会議	2020年12月4日 稲沢市産業会館 1階・大会議室	・プロジェクトからの報告 ①「いいなざわざわ」season2 ～ラボ活動のオンライン交流の場としての活用～ ②ラボ活性化「キモチを形に」 ③季節を運ぶ手作り小物『四季の詩』 ～ワンコインチャリティ～ ④新型コロナ退散 稲沢市民大太鼓 ・ラボ活動予算化の考え方
第6回運営会議	2021年2月18日 稲沢市観光協会	・第4回全体会議の開催に向けて
第4回全体会議	2021年3月2日 稲沢市産業会館 1階・大会議室	・今年度の振り返り（活動報告） ・プロジェクトからの提案、協力依頼など ・次年度の活動に向けて ・ラボ活動ユニフォーム（ポロシャツ等）について ・大澤教授による講評

《その他》 事務局・グループ・メンバー間で随時ミーティングを実施。

■全体会議の様子



■活動ユニフォームのイメージ



② プロジェクトの活動状況（2021年1月末時点）

プロジェクト1 「稲沢まるごとイルミネーション」

稲沢市に縁のある LED を活用し、市民や企業等の連携により市内全体をイルミネーションで彩ることで、「冬の稲沢に人々が集う場所を作る」、「市民のまちへの愛着を増やす」、「市内へ通勤・通学する人々に稲沢市との接点を持ってもらう」ことを目指すプロジェクト。

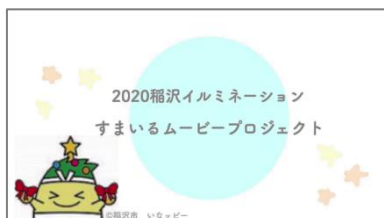
【2020年度の活動実績】

2020年11月28日～12月25日：

国府宮駅～国府宮参道、文化の丘公園を会場として、「2020 稲沢イルミネーション」(第5回)を開催。期間中の来場者数は 12,000 人。

<主な実施イベント>

- ・オンライン点灯式
(名古屋文理大学の学生が企画実施)
- ・「すまいるムービー」プロジェクト
(愛知文教女子短期大学の学生が動画制作)
- ・稲沢ブルーライトアッププロジェクト
- ・「新型コロナ終息を願ってお祈りしよう」
- ・星川楽器マラソンコンサート&キッチンカー
- ・Instagram フォトコンテスト



プロジェクト2 「やわせ！てくてくウォーキング♪」

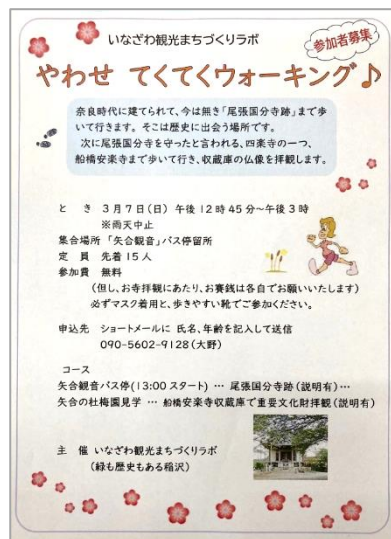
矢合地区内の文化財や名所を巡りながら楽しくウォーキングしてもらうことで、奈良時代から今日まで続く稲沢の古い歴史を体感してもらうプロジェクト。

【2020年度の活動実績】

2021年3月7日：いなざわ梅まつりの協賛イベントとして開催予定。

(※昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、開催中止。)

<ウォーキングスポット> 尾張国分寺跡、矢合の杜梅園、安楽寺(船橋)



プロジェクト3 「つなごう つながろう 稲沢」

情報ポータルサイト「いいな ざわざわ」を通じて、市内各地に点在する稲沢の魅力を「発信」し「連鎖」させることで、稲沢の観光情報の集約を目指したプロジェクト。

【2020年度の活動実績】

新規掲載数:5記事 (2019年度・14記事)

登録記者(情報発信者)数:23人 (前年比2人増)

<いずれも 2021年1月末時点>



プロジェクト4 「いいなざわざわ season2 ～ラボ活動交流の場としての機能追加～」 NEW

多様な人材が集まるラボの活動は、活動時間や活動場所の設定が困難であること、さらに新型コロナウイルスの感染拡大に伴い皆が集まって会議を行うことに支障が生じていることから、今後の活動を推進していく手段の一つとして、インターネット環境を活用した情報共有及び意見交換を行える仕組みを構築するプロジェクト。

具体的には、「つなごう つながろう いなざわ」プロジェクトで運営している情報ポータルサイト「いいな ざわざわ」内にラボメンバー専用交流サイト(ラボメンバーが意見を書き込むことができる掲示板・オンラインサイト)の機能を追加するもの。

【2020 年度の活動実績】

2021 年3月2日:ラボメンバー専用交流サイトが稼働開始。

稲沢市観光協会公式 WEB サイト内にリンク接続予定。



プロジェクト5 「新型コロナ退散 稲沢市民大太鼓」 NEW

一刻も早い新型コロナウイルス感染症の終息を願って、津島市で 900 年続く堀田新五郎商店(太鼓製造)から借用した直径1m50cm の大太鼓を皆で打ち鳴らすプロジェクト。

【2020 年度の活動実績】

2020 年 12 月5日:

尾張大國霊神社(国府宮)境内を会場として、「みんなの願いを届けよう 新型コロナ退散 稲沢市民大太鼓」を開催。

当日は地元の和太鼓グループや国府宮を拠点に活動しているボーイスカウト稲沢第6団、ガールスカウト愛知県第77 団の参加協力も得ながら実施。来場者数は 1,200 人。





プロジェクト6 「季節を運ぶ手作り小物 四季の詩」 NEW

季節感のある手作り小物や地元産の新鮮野菜の販売、「いなざわの昔話」を伝える紙芝居の朗読等を通じて地域の魅力を発信するとともに、人と人との輪を広げ、個々の持ち味が発揮できる、活気あふれるまちづくりを目指すプロジェクト。

【2020年度の活動実績】

2020年10月16日、12月16日、2021年2月16日：

稲沢市産業会館を会場として、ワンコインチャリティバザーを開催。販売価格は基本ワンコイン(100円又は500円)とし、売上の一部をチャリティ募金として稲沢市社会福祉協議会へ届けた。来場者数(累計)は143人。

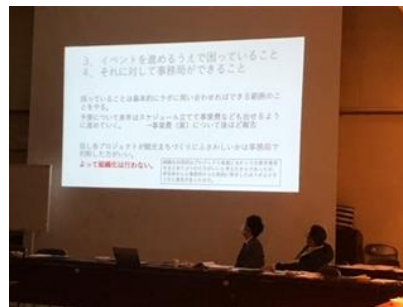
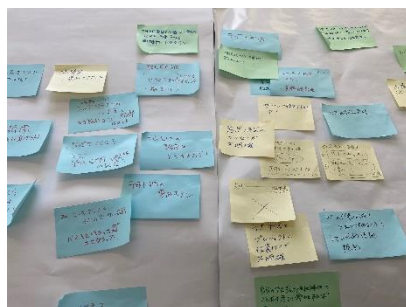


プロジェクト7 「ラボ活性化 キモチを形に」 NEW

稲沢市を盛り上げる活動に取り組みたい人が抱える課題と、その課題に対して「いなざわ観光まちづくりラボ」がどこまで解決できるかを明らかにすることで、組織の活性化に繋げるプロジェクト。

【2020年度の活動実績】

- 2020年8月 : ラボメンバー全員に対しアンケート調査を実施。ラボの意義や運営方法に関する考え、今後期待すること等を聞き取った。
- 2020年10月 : 調査結果を踏まえて、プロジェクトメンバーで協議。
- 2020年12月4日: ラボ活動(個々のプロジェクト)への支援とメンバー間の情報共有のあり方を整理し、第4回全体会議の場で報告。プロジェクトの実現及び推進に向けた支援措置(支援金制度)の創設を提案。



その他（進行中のプログラム）

プロジェクト8 「尾張国分寺跡&矢合から 歴道ウォーク」

“奈良時代の尾張国分寺跡”、“鎌倉時代の矢合の植木”、“江戸時代の美濃路”といった市内の史跡を巡る「歴道ウォーク」イベントを企画することで、歴史を通じて稲沢市の魅力を発信していくプロジェクト。



プロジェクト9 「『稲沢・サリオパーク祖父江』を世界へ！」

稲沢市の魅力の一つである「サリオパーク祖父江」をフィールドとして、スポーツや自然体験を通じて地域の活性化を図るプロジェクト。



プロジェクト10 「稲沢グリーンツーリズム」

稲沢市の代表的な産業である植木をメインに、矢合観音を始めとする矢合地区周辺の魅力を体感できるツアーを企画することで、地域内の経済効果を生み出し、稲沢市の活性化を図るプロジェクト。



プロジェクト 11 「稲沢農業ツアーリング事業」

市内にある特徴的な農園を回るバスツアーを企画することで、稲沢市の多彩な農業を市内外の人々に知ってもらうとともに、農業支援に繋げるプロジェクト。農園同士の連携によるイノベーション創出と新たな6次産品の開発の契機となることを目指す。



プロジェクト 12 「稲沢市初の『国宝』を誕生させるプロジェクト」

市民、関係団体、行政が一体となり、重要文化財(当初候補:長光寺の「鉄造地藏菩薩立像」と「地藏堂」)の『国宝』指定に挑戦することで観光まちづくり活動の具現化を図り、シビックプライドの醸成と「歴史・文化都市 稲沢」の価値向上を目指すプロジェクト。



プロジェクト 13 「いなざわ観光まちづくりラボ共同企画 ローズ倶楽部イベント」

名古屋のシニア活動団体「ローズ倶楽部」が主催するイベントを「いなざわ観光まちづくりラボ」と共同で実施することで、稲沢市への観光誘客に繋げるプロジェクト。

※ローズ倶楽部とは、(株)中日メディアブレイクが毎月発行するシニア向け中日新聞折込み情報誌「ローズ」の読者会員組織。会員数は約2,000名で、年間100回以上のイベント、講座を主催している。



プロジェクト 14 「興化山長光寺 臥松水蘇り」

稲沢市六角堂の長光寺は多くの文化財を有し、境内には織田信長が愛飲したと伝わる井戸「臥松水」が残っている。この臥松水を市民の手で現代に蘇らせることで、稲沢市の新たな観光資源にしていくプロジェクト。



(3) 成果指標の達成状況

成果指標					
項目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度※2	目標値 (2022年度)
メンバー数	31※1	52	55	60	100
プロジェクト実施数	0	4	9	14	10

※1：稲沢市観光基本計画アクションプラン検討会議のメンバー数

※2：2021年1月末時点

3 新型コロナウイルス感染症への対応について

2020年初頭から進行した新型コロナウイルスの感染拡大は、国内の社会経済活動に大きな影響を与えました。本市においても、年間を通じて祭りやイベントが軒並み中止となり、感染拡大防止に伴う行動自粛要請等もあって、観光面で深刻な影響を受けました。

こうした中、本市では稲沢市観光協会を中心に関係機関・団体との連携の下、「おうちで盆踊り♪」や「稲沢再発見オンラインシンポジウム」を始めとするオンライン型イベントの開催、スマートフォンを活用して市内の観光スポットと一緒に飲食店・特産品店を巡る「信長くん育成スタンプラリー」の実施、「桜ネックレス」や「性海寺のアジサイ」「祖父江のイチョウ黄葉」の魅力を伝える観光PR動画の配信、感染予防対策を徹底しながらの団体旅行客の受入など、コロナ禍における地域交流・地域経済の下支えと観光需要の回復に向けた活動に取り組みました。



新型コロナウイルス感染症の治療薬やワクチンの開発・普及等により感染リスクに対する不安が払拭されるまでは、感染拡大以前の水準まで観光需要が回復することは見込めません。そのため、当面の間は、感染症の存在を前提として、感染拡大防止と観光振興の両立（ウィズコロナ）を図っていく必要があります。

また、観光による感染恐怖や、自地域内への旅行者に対する受入意向の低下といった観光に対する意識の変化が起こっており、多人数が集まる団体旅行より

個人旅行、不特定多数が集まるテーマパークや都市圏より自然豊かな地方への旅行、海外旅行よりも短期的な近場観光など、安心安全を第一に考えた旅行への需要が高まっています。

こうした流れを踏まえ、ウィズコロナの時期においては、観光需要の回復に向けて、個人による「三つの密」（密閉空間、密集場所、密接場面）の回避、「人と人との距離の確保」「マスクの着用」「手洗いなどの手指衛生」などの基本的な感染対策を踏まえた「新しい生活様式」の実践及び事業者における各業種のガイドラインに沿った感染防止対策の徹底を呼び掛けるとともに、近隣エリアを主なターゲットとしつつ、感染状況や旅行者の観光に対する意識や需要の変化を見極めながら、県内、そして経済圏をとともにする近隣県からの誘客を段階的に進めていきたいと考えます。

4 アクションプランの進捗状況と今後の方針について

- ▶ 別添「稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）アクションプラン進捗状況【2020年度実績】」のとおり。